

日 英 汉 韩 对 照

赴日留学 初级日语会话教程

聞く・考える・話す
留学生のための初級にほんご会話

小池真理 中川道子 宮崎聡子 平塚真理 著

大连理工大学出版社

日英汉韩对照

赴日留学初级日语会话教程

小池真理 中川道子 宫崎聡子 平塚真理 著

大连理工大学出版社

© 2007 by KOIKE Mari, NAKAGAWA Michiko, MIYAZAKI Satoko and HIRATSU-KA Mari

First published 2007 by 3A Corporation

© 大连理工大学出版社 2008

本书由株式会社スリーエーネットワーク正式授权给大连理工大学出版社出版发行，
严禁在中国境外销售。

著作权合同登记号：06—2008 年第 161 号

版权所有·侵权必究

图书在版编目(CIP)数据

赴日留学初级日语会话教程：日英汉韩对照/(日)
小池真理等著. —大连：大连理工大学出版社，2008.9
ISBN 978-7-5611-4460-2

I. 赴… II. 小… III. 日语—口语—教材 IV. H369.9

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2008)第 141978 号

大连理工大学出版社出版

地址：大连市软件园路 80 号 邮政编码：116023

发行：0411-84708842 邮购：0411-84703636 传真：0411-84701466

E-mail: dutp@dutp.cn URL: http://www.dutp.cn

大连理工印刷有限公司印刷 大连理工大学出版社发行

幅面尺寸：185mm×260mm	印张：14.5	字数：335 千字
附件：光盘 1 张		印数：1~6000
2008 年 9 月第 1 版		2008 年 9 月第 1 次印刷

责任编辑：高颖	责任校对：向东 钟宇 郑美玲
封面设计：宋蕾	插图：内山洋见

ISBN 978-7-5611-4460-2

定 价：25.00 元

はじめに

この会話教材は、日本語未習の学習者を対象に円滑にコミュニケーションできる能力を養成することを目的として作成しました。日本語を学習する最初の段階からできるだけ実際の会話場面に近い状況を設定し、実際と同様の思考プロセスで会話を進められるようにしてあります。その中で学習者自身が「考える」ことを重視した活動を多く取り入れてあります。「考える」ことを通して日本語の表現、日本語でのコミュニケーションの方法に対する理解を深め、学習者自身の既有的知識とネットワークを作り、応用力、自己モニター能力、観察力の養成につなげられることを願っています。

本教材は、1997年に作成した北海道大学留学生センターオリジナル会話教材「Conversation for You」が基礎となっています。何度かの修正を加えた後、上記のような考え方を取り入れ、大幅に改良し、多くの新しい練習も追加しました。そして、実際に授業で使用しながら著者4人で何度も話し合いをして推敲を重ね、この教材を完成させました。なお、本教材で作成したロールプレイカードは、「Conversation for You」作成時の考え方、つまり、会話相手の状況、あるいはその先の会話展開がわからない状態でロールプレイをするという考え方をそのまま採用しています。この「Conversation for You」を共に作成した小林ミナ氏（早稲田大学）、原田明子氏にはここに記して感謝の意を表します。

本教材の試作の段階から英訳をしてくださったベンジャミン・サリバン氏（マサチューセッツ大学アマースト校）には大変お世話になり、また梅田悦雄氏（北海道大学）にもご協力いただきました。誠にありがとうございました。そのほか一人一人のお名前はありませんが、貴重なご意見を寄せてくださった皆様、会話授業でさまざまなフィードバックをくださった留学生の皆様にお礼を申し上げます。最後になりましたが、スリーエーネットワークの藤井晶子氏にはたくさんの貴重なアドバイスをいただき、また私たちの質問、注文にも根気強くお付き合いいただきました。田中綾子氏には丁寧に原稿をチェックしていただきました。御二人に心から感謝申し上げます。

著者一同

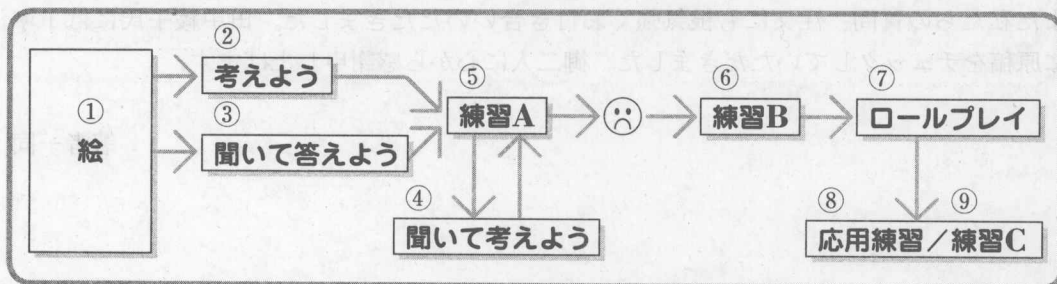
To the Learners

As is shown by the title, this textbook is designed not only to enable the learner to practice speaking by memorizing phrases and sentence patterns but also to study by "thinking." You need to think what to say to begin a conversation in a specific situation; how to communicate what you want to say; and how to respond when you are spoken to. In other words you need to think how you can express yourself using the patterns and phrases that you know, the result of which should be networked with your knowledge and common sense. There is more than one way to say something in a specific situation. You need to think, therefore, which one is appropriate or which one is not and why.

In a conversation you must handle a very complicated process in a moment: you listen to and understand what your partner is saying; choose appropriate words and phrases to respond; and utter them. Therefore it is important to practice the process on a routine basis and to make various networks in your head for instant understanding and utterances. With this textbook we hope you will be able to communicate in Japanese with more confidence.

Organization of Lessons

Each lesson basically consists of ① 絵 (a picture), ② 「考えよう」 (Let's think), ③ 「聞いて答えよう」 (Listen and answer), ④ 「聞いて考えよう」 (Listen and think), ⑤ 練習 A (Exercise A), ☹ (error/inappropriate examples), ⑥ 練習 B (Exercise B), ⑦ ロールプレイ (Role-play), ⑧ 応用練習 (Application exercise), ⑨ 練習 C (Exercise C), ⑩ NOTES, 😊 (appropriate examples).



Note that there are some lessons which do not have ② 「考えよう」, ③ 「聞いて答えよう」 or ④ 「聞いて考えよう」. Also, Lesson 14 has ⑨ 練習 C instead of ⑧ 応用練習.

At the beginning of each lesson ① 絵 shows the scene or situation of the following conversation. ② 「考えよう」 or ③ 「聞いて答えよう」 is the first section of the lesson. ② 「考えよう」 is an exercise for speakers and ③ 「聞いて答えよう」 for listeners. ⑤ 練習 A is a substitution drill. ⑥ 練習 B, ⑧ 応用練習 and ⑨ 練習 C include conversation examples. These conversations are just examples and not meant to be conversation models for memorization or substitution drills. Be sure to read ⑩ NOTES, which explain important items of each lesson.

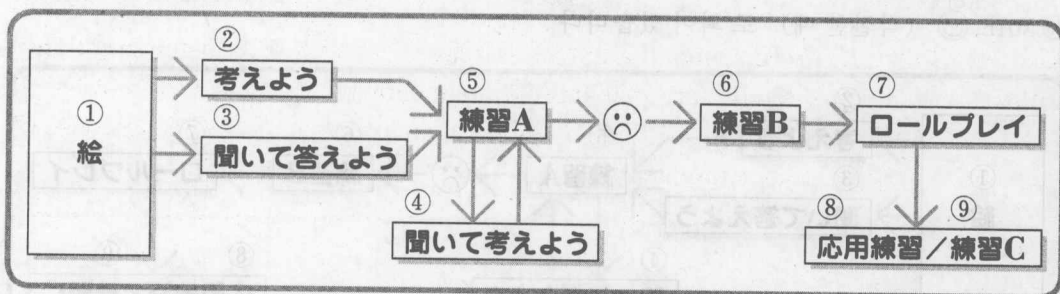
致使用本书的学习者们：

如本书书名所示，本书不仅是为了记忆各种句型、表达，同时还需要进行思考学习。说到要思考什么的话，就是在某个场景、某个状况下，如何开始会话、如何把想说的话表达出来，还有，碰到日本人搭话时，该如何回答等等。让我们一起来思考这些问题。也就是说，我们要思考使用已经学过的句型、表现能表达什么，而且将它和大家所拥有的知识、常识挂钩。在某一场合、状况下，可以使用的表达并非只有一个。因此，我们要思考什么样的表达恰当，什么样的表达不恰当，为什么不恰当。

会话是在听取对方的话进行理解的基础上，为了能适当的进行回答而选择表现表达的一个复杂的过程。它必须在一瞬间进行。所以，从平时的练习开始，遵循这一过程，为了在一瞬间做出判断，在大脑中建立各种各样的连接是非常重要的。我希望通过本书，学习者们能变得满怀自信地使用日语进行交流。

每课的构成

每课基本上由以下各部分构成①「絵」、②「考えよう」、③「聞いて答えよう」、④「聞いて考えよう」、⑤練習 A、⑥(誤用・不适当例)、⑦練習 B、⑧ロールプレイ、⑨応用練習、⑩練習 C、⑪NOTE、⑫(适当例)。



②「考えよう」、③「聞いて答えよう」、④「聞いて考えよう」部分并非每课都有。而且，只有 14 课没有⑧応用練習，取而代之有⑨練習 C。

每课都从显示场景、状况的①「絵」最先切入，然后由②「考えよう」或者③「聞いて答えよう」开始。②「考えよう」是说话人的角度，③「聞いて答えよう」是听话人的角度。⑤練習 A 是替换练习。⑥練習 B、⑧「応用練習」、⑨練習 C 有会话例。这些会话是作为参考举的例，其目的并非是将它作为模范会话来记忆和进行替换练习用。⑩NOTES 是各课中的一些重要用法的解释，请务必一读。

이 교재를 사용하시는 학습자 여러분에게

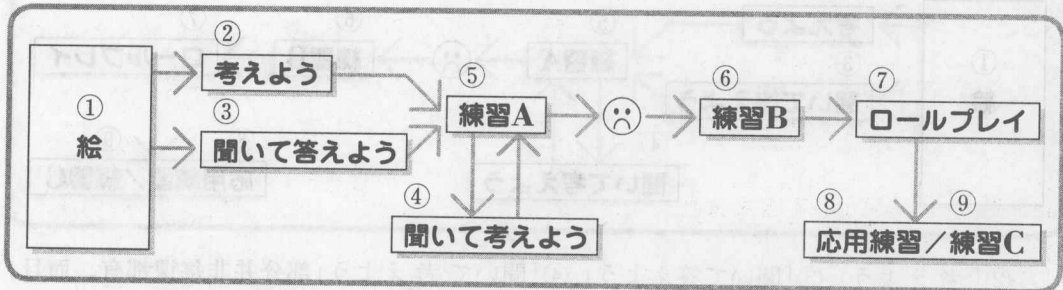
이 교재는 책 제목에 있듯이 문형이나 표현을 외워서 이야기하는 것만이 아니고, 「생각해서」 학습합니다. 무엇을 생각하는가 하면, 어느 장면이나 상황에서 뭐라고 이야기를 시작하면 좋은지, 하고 싶은 말을 어떻게 전하는지, 또 누군가가 말을 건네 왔을 때 어떻게 대답하는지 등을 생각합니다. 즉, 이미 배운 문형이나 표현을 사용해 어떻게 표현할 수 있는지를 생각해 한층 더 여러분이 가지고 있는 지식이나 상식과 연결시킵니다.

어떤 장면이나 상황에서 사용할 수 있는 표현은 하나가 아닙니다. 거기에서 어떠한 표현이 적절한지, 또는 부적절한지, 어째서 부적절한지를 생각합니다.

회화라고 하는 것은 상대가 하는 말을 들어서 이해하고, 적절한 대답을 할 수 있도록 표현을 선택해서 이야기하는 복잡한 과정을 한순간에 실행하지 않으면 안됩니다. 그래서 평소 연습 때부터 이 과정을 밟는 것, 그리고 한순간에 판단하기 위해서 머릿속에 여러가지 네트워크를 가지고 있는 것이 중요합니다. 이 교재를 통해 학습자 여러분이 자신을 가지고 일본어로 커뮤니케이션을 할 수 있게 되기를 바랍니다.

각과의 구성

각과는 기본적으로 ① 그림 ② 「考えよう」 ③ 「聞いて答えよう」 ④ 「聞いて考えよう」 ⑤ 練習 A, ☹️ (오용 부적절한 예) ⑥ 練習 B ⑦ 례론프레이 ⑧ 応用練習 ⑨ 練習 C ⑩ NOTE, ☺️ (적절한 예) 로 되어 있습니다.



다만, ② 「생각하기」와 ③ 「듣고 대답하기」 ④ 「듣고 생각하기」는 각과에 모두 있는 것은 아닙니다. 또 14 과만 ⑧ 응용 연습이 없고, 그 대신에 ⑨ 연습 C가 있습니다.

각과는 모두 장면이나 상황을 나타내는 ① 그림이 처음에 제시되고 ② 「생각하기」나 ③ 「듣고 대답하기」로 시작됩니다. ② 「생각하기」는 말하는 사람 ③ 「듣고 대답하기」는 듣는 사람의 입장입니다. ⑤ 연습 A는 치환 연습입니다. ⑥ 연습 B ⑧ 응용 연습 ⑨ 연습 C에는 회화의 예가 있습니다. 이러한 회화는 참고로서 든 일례로 모델 회화로서 암기하고, 치환 연습을 목적으로 하지는 않습니다. ⑩ NOTES 는 그 과에서 중요한 표현의 해설이므로 반드시 읽으십시오.

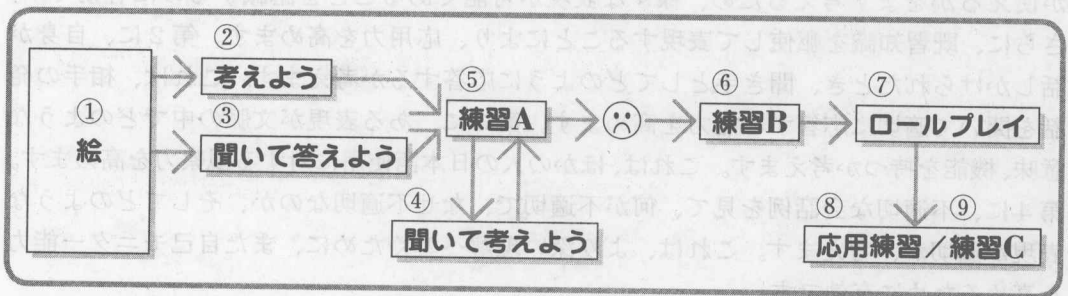
このテキストをお使いになる学習者の皆様へ

このテキストは本のタイトルにあるように文型や表現を覚えて話すだけではなく、「考えて」学習します。何を考えるのかと言うと、ある場面や状況で何と言って話し始めたらいいいのか、言いたいことをどのように伝えるのか、また話しかけられたらどう答えるのかなどを考えます。つまり、既習の文型や表現を使用してどのように表現できるか考え、さらに皆さんが持っている知識や常識と結び付けます。ある場面や状況で使える表現は1つではありません。そこで、どのような表現が適切なのか、または不適切なのか、どうして不適切になるのかを考えます。

会話というのは、相手の話を聞きそれを理解して、適切な応答ができるように表現を選び、話すという複雑な過程を一瞬で行わなければなりません。ですから、普段の練習のときからこの過程を踏むこと、そして一瞬で判断するために頭の中にいろいろなネットワークを持っていることが重要です。このテキストを通して、学習者のみなさまが日本語で自信を持ってコミュニケーションができるようになることを願っています。

各課の構成

各課は基本的に①「絵」、②「考えよう」、③「聞いて答えよう」、④「聞いて考えよう」、⑤練習A、⑥練習B、⑦ロールプレイ、⑧応用練習、⑨練習C、⑩NOTES、⑪（適切例）からなっています。



ただし、②「考えよう」と③「聞いて答えよう」、④「聞いて考えよう」は各課に全てあるわけではありません。また、14課のみ⑧応用練習がなく、その代わりに⑨練習Cがあります。

各課は全て場面や状況を示す①「絵」が最初に示され、②「考えよう」か③「聞いて答えよう」で始まります。②「考えよう」は話し手、③「聞いて答えよう」は聞き手の立場でどのように話すか考える練習です。⑤練習Aは置き換え練習です。⑥練習B、⑧応用練習、⑨練習Cには会話例があります。これらの会話は参考として挙げた一例で、モデル会話として暗記することを目的としていません。置き換えて練習するためのものではありませんので、会話例にとらわれずに自由に練習してください。⑩NOTESはその課での重要表現の解説ですから、必ず読んでください。

このテキストをお使いになる先生方へ

1. 特徴

このテキストは、初級学習者向けの会話のテキストです。場面や機能に応じた表現や談話構成を学習すると同時に、会話の当事者として、相手の発話を聞き、適切な応答を考えて、話す能力を養成するためのテキストです。今までの初級テキストはモデル会話があり、最初に全体を把握してからその中の学習項目に焦点を当てて学習するものが多く、談話構成や様々な表現を覚えて話すという練習が主だったと言えます。

このテキストは、最初にモデル会話がありません。それはできるだけ実際のコミュニケーション場面に近い形で練習することを目指しているからです。実際の会話では、最初から会話の全体像がわかっていることはありません。そこで、このテキストは実際に会話を進めるときと同様の思考プロセスで、まず、状況を認識した上で、会話の当事者として会話を進めていく構成になっています。

このテキストは、日本語を初めて勉強する学習者だけではなく既習の学習者にも使うことができます。また、必ずしも第1課から第21課まで順番に進める必要はありませんので、学習者の既習の知識、興味などに合わせて順番を入れ替えて練習してください。

2. 目的

このテキストの大きな目的の1つは「考えて学ぶ」ということです。第1に、ある状況下において話し手として、自身の既習知識でどのように表現するかということを考えます。これは、文型が先にあってそれをどう使うかではなく、ある状況下でどんな表現が使えるかをまず考えるため、様々な表現が可能であることを認識するのに有効です。さらに、既習知識を駆使して表現することにより、応用力を高めます。第2に、自身が話しかけられたとき、聞き手としてどのように応答するか考えます。これは、相手の発話を聞いて適切に応答する能力を高めます。第3に、ある表現が文脈の中でどのような意味、機能を持つか考えます。これは、ほかの人の日本語使用に対する観察力を高めます。第4に、不適切な会話例を見て、何が不適切で、なぜ不適切なのか、そしてどのような表現が適切か、考えます。これは、より深い理解へ導くために、また自己モニター能力を高めるために有効です。

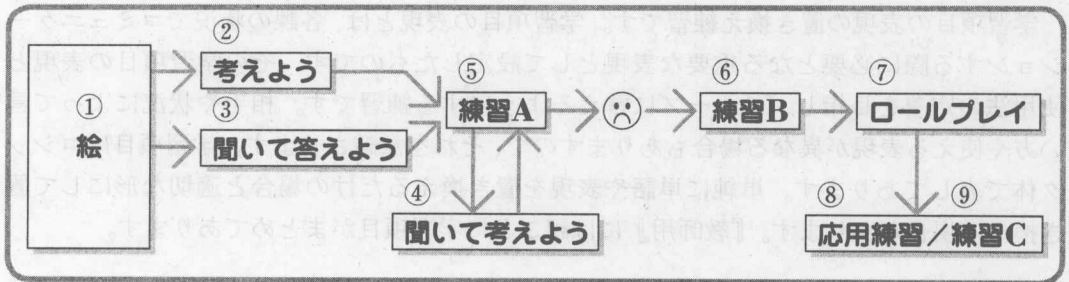
つまり、「考える」ことにより、実際の社会において自身の日本語知識を応用し、相手の発話をよく聞き、自身の発話を自己モニターし、さらにほかの人の日本語運用を観察する能力を養成することを目的としています。

3. テキストの各課の構成と目的

テキストの各課は、以下のようになっています。

①の「絵」で状況を示し、②「考えよう」あるいは③「聞いて答えよう」のいずれかで始めます。「考えよう」「聞いて答えよう」、④「聞いて考えよう」の練習は、各課にすべてあるわけではなく、課によってはないものもあります。⑤「練習A」～⑦「ロールプレイ」、及び⑩のNOTESはすべて各課にあります。各課は、「絵」で状況を把握させ、

⑦の「ロールプレイ」まで行わせることによって、このテキストの目指すことが達成されますので、必ずロールプレイまで進めてください。1課は90分で進められるようになっていますが、学習者の目的、人数、日本語レベルなどに応じて適宜時間を調整してください。⑧の「応用練習」は未習者には難しく、既習者や余裕のある学習者向けとして活用してください。



以下、各練習について概略を記します。個別の詳しい説明や練習方法は別売の『聞く・考える・話す 留学生のための初級にほんご会話 教師用』(以下『教師用』)をご覧ください。

① 絵

各課の冒頭にあり、学習者がどんな状況にいるかをイメージさせるものです。まず、絵で場面を示し、必要に応じて説明を加え、学習者が状況を具体的にイメージできるようにします。学習者が状況をイメージできたら、「考えよう」や「聞いて答えよう」に進みます。

また、既習者ならこの状況下でロールプレイをさせたり、会話を紙に書かせたりして、先に会話を考えさせることもできます。

② 考えよう

イメージした状況の中で、どのような表現を使用して発話するか考えさせるものです。知っている語彙や文型を駆使して状況に応じた表現を考えること、様々な表現が可能なことを実感させることが目的です。学習者は考えることにより、この状況の中で会話の当事者となります。「考えよう」「聞いて答えよう」「聞いて考えよう」での使用可能な表現や、よくある誤用、不適切例は『教師用』に書いてありますので、そちらを参照してください。

③ 聞いて答えよう

ある状況下で話しかけられたとき、どのように応答するかを考えさせるものです。つまり聞き手の立場としての練習です。これも様々な応答表現が可能なことを実感させ、柔軟な発想をさせることが目的です。CDを聞かせて行う練習です。スクリプトは『教師用』にあります。

④ 聞いて考えよう

この練習には2つのタイプがあります。1つは、ある文脈の中で異なる2種の発話を

聞いてその違いを考えさせ、新しい表現の意味や、機能を考えさせるものです。もう1つは、会話相手の発話のあとにどんな表現が続くか予測させるものです。いずれも教師はできるだけ解答を言わずに、学習者から引き出すようにします。これも「聞いて答えよう」と同様にCDを聞かせて行う練習で、スクリプトは『教師用』にあります。

⑤練習 A

学習項目の表現の置き換え練習です。学習項目の表現とは、各課の状況でコミュニケーションする際に必要となる重要な表現として設定したものです。その学習項目の表現と使用法の定着を目指し、スムーズに言えるようにする練習です。相手や状況によって言い方や使える表現が異なる場合もありますので、それを意識させます。学習項目はゴシック体で表してあります。単純に単語や表現を置き換えるだけの場合と適切な形にして置き換える場合があります。『教師用』には課ごとに学習項目がまとめてあります。

⑥練習 B

①絵の状況下での会話例で、基本的な談話構成になっています。あくまで1つの例として扱っていますので、暗記するためのものではないことを学習者に理解させておきます。ペア練習させてから、与えられた状況下で例にとらわれずに自由に会話練習をさせます。CDに練習Bの会話も入っていますので、それを聞かせることもできます。

⑦ロールプレイ

『教師用』の別冊にあるロールプレイカードを使用して行います。ここには各課に使用するロールプレイカードの番号が書いてあります。1つのロールプレイには、AとBの2枚のカードがあります。これは、お互いにどのような状況かわからない状態でロールプレイをさせるもので、より実際のコミュニケーション場面に近いと言えます。

学習者は自分が話すことばかりに注目するのではなく、相手の発話をよく聞いて応答しなければなりません。相手の発話がわからないときは、聞き返しをさせることも必要です。ロールプレイ中は教師やほかの学習者が手助けせず、2人だけで終わらせるようにします。ロールプレイが終わったら、見ている学習者にいいところとよくないところを言わせるといいでしょう。学習者に内省や観察を促すことにつながります。

⑧応用練習

少し難しい文型や表現が含まれるため、既習者や余裕のある学習者向けの練習となっています。練習Bと同じ状況で、より自然な話し方の会話、あるいは練習Bと同様の状況で会話相手や場所が異なる会話などがあります。

⑨練習 C

第14課には、応用練習の代わりに練習Cがあります。練習Cの状況設定は練習Bから時系列に沿った展開になっています。練習方法は、応用練習と同じ位置付けで既習者や余裕のある学習者向けの練習です。

⑩ NOTES

各課の最後に NOTES として、学習項目の表現の意味、運用法の説明がまとめて書いて

あります。練習Aの中に **(N1)** のように記し、各課の最後に説明があることを示しています。学習者といっしょに見てもよいですし、教師が口頭で説明をして、学習者に自宅で読むように伝えてもよいです。

⑩ 困みの語彙・表現

課によって四角で囲んだ語彙や表現があります。これは、その課に関連して覚えておくに役に立つ語彙や表現です。

4. 凡例

1) ☹️: 誤用・不適切例

誤用あるいはコミュニケーション上不適切な会話が示されています。どこが誤用/不適切か、どうして誤用/不適切か、さらに適切な会話はどのようなものか、学習者に考えさせます。

学習者が状況を把握して考えなければならないようになっていきます。ただし、未習者に誤用例と不適切例の区別を答えさせる必要はありません。

2) 😊: 適切例

各課のNOTESの後に「☹️: 誤用・不適切例」に対応した適切例が書いてあります。ほかにも適切な表現が可能ですが、1例として載せてあります。

3) Cf.

その課の練習Bの会話には含まれていませんが、使用できると便利な表現が示してあります。

4) …→:

「参照してください」という意味です。例えば、以下のようになります。

…→ **(N1)** NOTES 1 を見てください、という意味です。

…→ **(V1)** 別冊のV1 (語彙1) を見てください、という意味です。

…→ **(A2)** 別冊のA2 (付表2) を見てください、という意味です。

5) ↑: 文末イントネーション

↑は質問文あるいは確認の文の上昇イントネーションを、∨はイントネーションが下がると異なった発話意図として伝わるため、下降にならないほうがよいイントネーションを表しています。

6) 【 名前 】

これは練習Aの置き換え練習の部分にあり、学習者自身のことを話す場面が出てきます。例えば【名前】は学習者自身の名前を使用して練習します。ほかに国、身分、学部などがあります。

7) ☺️:

これは練習Aの置き換え練習の部分にあります。このマークがあるところは、学習者

がその状況に応じて自由に考えた語彙、表現、文を使用するところです。



8)  :

CDに収録されている箇所を示します。番号はCDのトラック番号です。


5. 別冊 (SV)

語彙 (V 1~9)、付表 (A 1~5)、索引の順になっています。語彙は、練習 A の置き換え練習をする際に必要な語彙や、自由に置き換え練習をする際などに参考になると思われる語彙です。必ずしも練習した時点で全部覚えなければならないわけではありません。付表は、時を表す語彙や数詞、助数詞などです。

6. CD

CDには、「聞いて答えよう」「聞いて考えよう」そして練習 B の会話、応用練習、練習 C の会話、そのほか CD マーク  が付いている箇所が録音してあります。CDに収録されている箇所は、CD マーク  にトラック番号が振ってありますので、『教師用』にあるスクリプトを見ながら使用してください。練習 B と応用練習の会話は毎回授業内で聞かせる必要があるわけではありません。

7. 『教師用』の構成

別売の『聞く・考える・話す 留学生のための初級にほんご会話 教師用』は、各課の解説、授業実践例、使用した文型のリスト、CD のスクリプト、ロールプレイカード、ロールプレイ用補助教材からなっています。各課の解説には、目標、学習項目、事前の準備物、教えるときの留意点を書いてあります。また、スクリプトには CD の音声を使用する「聞いて答えよう」「聞いて考えよう」練習 B、応用練習、練習 C、そのほか CD マーク  が付いている箇所のスクリプトが各課ごとに載せてあります。ロールプレイカードは、各課に 2 枚 1 組のカードが 2 種類あります。第 4 課は 1 種類だけです。詳しくは『教師用』をご覧ください。

登場人物
とうじょうじんぶつ



アレン・リーバークウィル
カナダからの留学生
日本語の研修生
研究生
工学部電子工学

友だち
とも



リー
中国からの留学生
日本語の研修生
農学部



ナタリー
ブラジルからの留学生
日本語の研修生
経済学部

先輩
せんぱい



キム
韓国からの留学生
大学院生
工学研究科



中田
日本人の大学生
文学部



小川
日本人の大学生
工学部



高木
日本人の大学院生
同じ研究室の先輩
工学研究科

先生
せんせい



森先生
日本語の先生



山本先生
指導教員
工学部の教授

■ ■ ■ Main Characters ■ ■ ■



アレン・
リーパークウィル
Student from Canada
Japanese language trainee
Research student
Electronic engineering
Department of Engineering

Friends



リー
Student from China
Japanese language trainee
Department of Agriculture



ナタリー
Student from Brazil
Japanese language trainee
Department of Economics

Seniors



キム
Student from Korea
Graduate student
Graduate engineering
course



中田
なかた
Japanese student
Department of Literature



小川
おがわ
Japanese student
Department of Engineering



高木
たかぎ
Japanese graduate student
Senior in the same department
Graduate engineering
course

Teachers



森先生
もり せんせい
Japanese teacher



山本先生
やまもと せんせい
Supervisor
Professor of the Department
of Engineering

■ ■ ■ 登场人物 ■ ■ ■



アレン・
リーパークウィル
从加拿大来的留学生
日语的研修生
研究生
工学系电子工学

朋友



リー
从中国来的留学生
日语的研修生
农学系



ナタリー
从巴西来的留学生
日语的研修生
经济学系

前辈



キム
从韩国来的留学生
日语的研修生
大学院生
工学研究科



中田
なかた
日本大学生
文学系



小川
おがわ
日本大学生
工学系

老师



高木
たかぎ
日本大学院の学生
一个研究室的前辈
工学研究科



森先生
もり せんせい
日语老师



山本先生
やまもと せんせい
指导老师
工学系の教授